

## ＜第 1 回庁外委員会意見と回答及び対応方針＞

当日の意見	回答及び対応方針
○高齢者介護予防教室（各コミュニティ運営協議会が主催）の利用者が増加している。井野小以外の校区すべてでその受け皿の確保が必要。	➤介護予防教室など高齢者福祉サービス提供の場について、今回の再配置計画における老人福祉センター機能の小学校への複合化等も勘案しつつ、検討を進めていきます。
○現在、放課後の子どもの居場所が少ない。複合化する場合、未就学児童・就学児童ともに外遊びができる場、親子・子どもと高齢者の交流、コミュニケーションの場があればよい。親同士の交流の場にもなる。	➤再配置計画では、各小学校を校区コミュニティ拠点の中心として、空き教室を活用した多世代交流の場として複合化することを再配置の基本として検討を進めていきます。
○自治会公民館、分館の位置づけはどうか。	<p>➤町保有、自治会保有の性格を見極め、町保有の集会所等については地域移譲の検討や経年による廃止などの検討を進めていきます。</p> <p>➤人口減少と少子高齢化を踏まえれば、将来的に自治会の統合も必須と考えています。今後、各小学校を自治会や校区コミュニティの拠点として利活用する検討を進めていきます。</p>
○40人学級→30人学級の変更、教育相談室の確保、特別支援学級の不足への対応等、教育面の新たな課題を踏まえた教育環境整備が必要。	<p>➤現在、社会保障・人口問題研究所が推計した人口予測（宇美町人口ビジョンより人口減少が著しい）を基本とし、普通教室に対する特別教室の割合が一定と見込み、特別支援学級数を設定しています。</p> <p>➤将来の空き教室の有効活用策の一つとして、今後、所管課からの教育ニーズに対する需要量（確保すべき空間容量等）が提案された時点で空き教室を再検討し、再配置計画の見直しを進めていきます。</p>
○現在、教育環境が整っていない。教育環境を整えながら、町の財政も踏まえながら再配置の検討をすべき。	➤現時点では、箱物公共施設の将来像が明確でないため、現在の学校施設は十分な施設改修ができているとはいえません。再配置計画を策定し、複合化・建替え時期など明らかにした上で、適切な改修を行っていきます。
○各小学校で学童保育の場所が異なる。 ○PTAでは、子どもと高齢者の交流の場はコミュニティセンターを中心に行ってはどうかという意見が多い。	➤小学校全体を学童保育、集会、高齢者との交流等、コミュニティ形成の拠点として想定しており、各小学校の空き教室増加量などを見据え、段階的に複合化するなどの検討を進めていきます。

当日の意見	回答及び対応方針
<p>○消防コミュニティ施設は組織体制の改変と並行して施設再配置を考える必要がある。</p>	<p>➤施設の具体的な集約等は所管課で別途組織再編を検討し施設再編されるものとなります。</p> <p>➤本委員会では、現段階での人口減少率にあわせた消防施設の総量の削減（統廃合）を見込み、検討を進めていきます。</p>
<p>○削減率 24%は、将来の人口減少 14%に対して大きすぎないか。利用者からすれば、床面積が減ることになり、サービスが低下することにもなる。</p>	<p>➤削減率の設定の手法としては、人口減少に合わせて算出する手法や維持更新費用から算出する手法等があります。当町では後者の手法で検討し、残すべき施設は長寿命化する等、公共施設等総合管理計画の 4 つの全体方針を定めました。その中で、延床面積当たりの削減率 24%を掲げていますが、集約・複合化の手法によっては必須ではなく目標値と考えます。削減しながらも新たな価値を創出していく縮充を念頭に計画を策定していきます。</p>
<p>○中央公民館のトイレが少ない、汚いという苦情が多い。どうにかならないかという声をよく聞く。</p>	<p>➤中央公民館は築 40 年と老朽化しています。トイレについても建設当時の形態が残っている箇所もあり、利用者の方々には不自由をおかけしていることと理解しています。当施設においても再配置計画によって将来像を明らかにしていき、方針決定後に適切な対応を行っていくこととなります。</p>
<p>○将来、施設を削減や複合化した後に、生徒数の増加などニーズが変化し、増築等が必要となる可能性が出てくることも想定しておく必要がある。</p> <p>うみハピネスの話があったが、私自身も町外のアクションを利用している。宇美町が所有せずとも、民間や町外の施設と協定を結んで利用できるようにするのも考えられるのではないか。</p>	<p>➤人口減少については、あくまで推計値であり、将来の人口減少に歯止めをかけるべく対策を行うことが必要です。再配置計画では、リスクマネジメントの観点から、リスクの大きい減少値を採用しています。ただし、小学校における複合化については一定の余裕も考慮した配置を検討していきます。また、近郊類似施設についても 2 次評価において検討していきます。</p>
<p>○ハード面では新規に整備はしないという方針であるが、小学校の複合化はニーズに応じることが大切。ソフト面の充実させることも課題。</p>	<p>➤町内の運動広場、屋内運動施設などについては、利用状況、住民意向等を踏まえ、集約化や小学校体育館との共同利用など、再配置計画の中で、より効率的な利用方策を検討していきます。</p> <p>➤複合化により世代間交流などの新しいニーズへの対応が可能になるよう検討を進めていきます。</p>

当日の意見	回答及び対応方針
<p>○財政面が厳しいことは理解できるが、軽スポーツの充実を進めるため、施設の使用料金は下げてほしいのが本音。</p>	<p>➤住民アンケートでは、利用者における受益者負担という意見が多かったのも事実ですが、施設使用料上昇により利用者減少となつては意味がありません。再配置計画は施設使用料について決定するものではありませんので、料金設定においては、他の機会ですら所管課により慎重な検討を進めていくこととなります。</p>
<p>○目標数値の延床面積 24%削減は、再配置の前提として認識し、個別に再配置の検討にあたる必要がある。</p>	<p>➤一次評価、第1回庁内会議、第1回住民ワークショップ意見を踏まえ削減量を積み上げて算出すると、約23%程度の削減が見込まれます。</p> <p>➤今後、一次評価に基づき、施設近傍の需要ニーズや同類施設の有無など機能見直しの必要性、受け皿としての安全性、交通利便性、人口・施設の集積度、避難所指定などからなる二次評価を踏まえ、再配置先のポテンシャルを検証し、施設建替えのタイミングを勘案して、再配置計画を策定していきます。</p>